

広島県私立学校で教職員を目指す方へ

広島県内の私立中学校・高等学校について

現在、広島県内には私立高等学校が 38 校と私立中学校が 25 校あり、約 3 万人余の生徒が在籍して学校生活を送っています。それぞれの学校が建学の精神に基づいた特色ある教育を行っており、理想の教育を追い求めています。また、私立学校は活発なクラブ活動が多く、スポーツやサイエンス、文科系など様々な分野と種類があります。生徒一人ひとりの能力を見出し、伸ばすだけではなく、人間関係や信頼関係を育む大切な活動の場にもなっています。

私立学校の教員という仕事の魅力

私立学校の特徴として、教員と生徒の距離が近いことが言われています。採用された際の雇用条件にもよりますが、私立学校の場合、基本的には転勤がないため、高等学校であれば 3 年間、中高一貫校であれば 6 年間を生徒と一緒に学校生活を送ることになります。これは、教員と生徒にとって大きなメリットで、なかでも教員としての指導力やサポート力を発揮できるものと考えています。このような私立学校のサポート力が高い教育環境に、保護者の方からも大きな信頼と期待が寄せられています。

私立学校の教員に求められること

現在、情報技術 (IT) の急進展には目を見張るものが多く、教育現場にも 1 人 1 台の ICT 機器が配置され、まだまだイノベーションの進化が求められています。そのような環境下だからこそ、私立学校の教員は、十分な知識と技能を習得し、それを基に解が固定されない問いに対して思考力や判断力、表現力を駆使しながら、主体性を持って様々な人と協働する姿勢が求められています。

他方で、私立学校の大きな特徴としては、それぞれの学校が建学の精神に基づく校訓のもと「特色教育」が行われています。学校毎に置かれている環境も異なるなかで育まれた校風などは、各学校のオリジナリティがいっぱいです。しかしながら、外部環境における予測不能な未来が待ち構えているのも事実です。そんな状況のなか、生徒たちの進路選択の方針も大きく変わらざるを得ないことも考えられることから、生徒一人ひとりの希望の未来を実現するために、私立学校の教員としての役割と期待が大きくなってきています。

公立校と私立学校の違い

同じ教員でも公立学校と私立学校では労働条件が異なります。公立学校の教員は公務員となりますが、私立学校の教員は民間企業の社員や団体職員と同じです。それぞれの学校 (学校法人) ごとに雇用条件や制度は異なりますが、働き方改革にも留意して運営していますので、残業をすれば報酬に反映されることは民間企業等と同様の考え方です。

また、特色教育も画一化されたものではなく常に進化しなくてはなりません。私立学校には、いろいろな才能を発揮しやすい風土があるので、能動的に活動することによって、より良い学校へ進化し得ると考えています。様々な変化のある時代だからこそ、私立学校教育の先見性や先進性、独自性が強みとなっています。そのうえで建学の精神のもと、教員一人ひとりが才能を磨く教育を実現し、未来を切り拓いていく責任と使命を果たしているのです。